

## 原風景は山と川

賛助会員 右田 宏

当 NPO の事業領域、密集市街地とは逆の位置にある、過疎地の話をしましょう。昨年は、国として、人口減少がはじまった年ということで、記憶される年になるでしょうが、地方のレベルでは 40 年以上前、昭和 30 年代から、人口減少ははじまっていました。岩波新書「日本の過疎地帯」(1968 年発行)に詳しくレポートされていますが、島根県の人口は、昭和 30-36 年 1%前後、37-38 年 1.5%前後、39 年は 2%と減少のテンポを速めていると記されています。昭和 30-40 年の減少率 40%という村もあったということです。「38 豪雪」が拍車をかけたといわれています。

私が高校を卒業するまで住んでいたのは、島根県の西部、石見地方で、日本海に注ぐ江の川沿の村です。Internet・Google のサテライト写真でみると、山の中を江の川が蛇行しつつ、日本海に流れ込んでいるようすがみてとれます。河口から遡り、はじめて狭いながら平地がみえるところ、支流との合流地点がそうです。それ程高くはないのですが、山また山の連なりに、地勢的環境を再認識しました。このような土地に育ったためか、東京の下町とか、周辺のまっ平らなところなどには住めそうにもありません。私は、多摩ニュータウンのセンターの近くに住んでもう 20 年以上になりますが、冬の朝、朝日をうけて秩父、甲斐へとつらなる山並みの巒までくっきりみえる景色は気に入っています。

また、子供の頃、夏休みといえば、半日を川で過ごしていたので今でも、海より川にたいする思いが強いようです。一方、江の川という大きい川と支流との合流点という地理的位置は、洪水の常襲地でもありました。そのため、いまでは川と地域とは高い堤防に隔てられ、以前のような親水性は全くなくなってしまっています。こうした反省からか、都市だけでなく地方でも水辺の再生がおこなわれだしているのは、うれしいことです。韓国ソウル市の、高架の高速道路を撤去して復元した、清溪川(チョンゲチョン)にならって、都市河川の改修復元のみならず、各地域で水辺環境の再生がすすむのを期待したいと思います。

